# 「carsten nicolai | syn chron」

(カールステン・ニコライ | シンクロン)



photo: Uwe Walter, Berlin

日時:2005年12月17日(土)~2006年2月19日(日)(※火曜および 12月27日~1月3日休館)

12:00~20:00 (入場は 19:30 まで)

会場:山口情報芸術センター スタジオ A

入場無料

# http://synchron.ycam.jp/

主催:財団法人山口市文化振興財団

後援:大阪ドイツ文化センター、日本におけるドイツ2005/2006、山口市、山口市教育委員会

助成:財団法人アサヒビール芸術文化財団

企画制作:山口情報芸術センター

プロジェクトキュレータ:阿部一直 (YCAM)

共同企画:フロインデ・グータームジーク・ベルリンe.V.

特別協力:新国立ギャラリー/ベルリン州立美術館、

メルツ・ムジーク | ベルリン・フェストシュピーレ

特別助成:シェリング・シュティッフング、ハウプト・シュタット・クルトゥーア・フォンズ

特別協賛:イェーノプティークAG、レーザーアニメーション・ゾリンガーGmbH、

ELACエレクトロアコースティックGmbH

共同開催:ビエンナーレ・ベルン

# 「carsten nicolai | syn chron」 (カールステン・ニコライ | シンクロン)

■インスタレーション展示

日時: 2005年12月17日(土)~2006年2月19日(日)(※火曜および12月27日~1月3日休館)

12:00~20:00 (入場は 19:30まで)

会場:山口情報芸術センター スタジオ A

入場無料

http://synchron.ycam.jp/

#### ■オープニング LIVE イベント

# LIVE raster-noton.ycam+koss

12月18日(日)19:00-22:00

会場:スタジオB(限定100名/オールスタンディング)入場料:1500円

出演:

[raster-noton]

alva noto (carsten nicolai)

byetone (olaf bender)

signal (carsten nicolai+olaf bender)

kangding ray (david letellier)

[guest]

koss (Kuniyuki Takahashi)

カールステン・ニコライが主宰するレーベルraster-notonの主要メンバーによるエレクトロニカLIVE に、ゲストとして札幌を拠点に世界的な活躍をみせるkossを迎えるコンサート

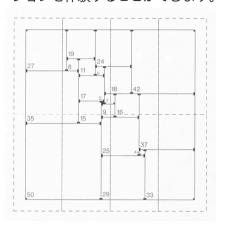
カールステン・ニコライによるインスタレーション「syn chron」は、今年2月にベルリンの新国立ギャラリー(ミース・ファン・デル・ローエ設計)で初公開され、大きな話題を呼んだ新作で、ベルリン側の国際的な協力を得て実現されるYCAM展が、日本/アジア初公開となります。作品が構想され始めた2年前当初から、ニコライとともに、ベルリンと山口での公開を想定して進められてきたサイトスペシフィックなコラボレーティブプロジェクトであり、しかも今回、サウンド/映像コンテンツが一新されるニューバージョンの初公開となります。壮大かつ緻密な構想と規模をもつこの作品のために、シアター用のスタジオAを特別に開放して展示を実現する展覧会です。

カールステン・ニコライはドイツ、ベルリンを拠点に活躍するアーティストで、造形アート(現代美術)とサウンドアート(ポストテクノ音響)両面で世界的評価を受けている点で、きわめて特異な才能ということができます。「ドクメンタ」(ドイツ)や「ヴェネツィア・ビエンナーレ」(イタリア)といった第一線のフェスティバルへの参加をはじめ、欧米各地での数々の個展開催、ライブパフォーマンス、コラボレーションプロジェクトなど、精力的な活動を持続的に繰り広げています。東京では、1990年代後半から数度にわたり革新的な展覧会を開き、日本のアートシーンにも多くのファンを持ちます。また今年からは、ミュージシャン坂本龍一とともにピアノと電子音響のインタラクティブなコラボレーションライブ「insen」のヨーロッパツアーを企画し、各地で絶賛を集めています。

## 作品内容/結晶としてのアート-光と音と建築の共生体

今回の作品は、造形アートとサウンドアートの発想を独自な構造体として連結させる、ニコライの本領が発揮された大作となるものです。ニコライはこのインスタレーションを「光と音と建築空間の共生体」と呼んでいます。物理的な結晶組織を分析して作り出された約幅14m、高さ4mの巨大な多面体が、映像プロジェクションを透過する特殊なハニカム構造の新素材で覆われ、その表面には多数の小さな特殊スピーカーが取り付けられています。ニコライ独自のサインウェーブやパルス音を多用したアブストラクトな電子サウンドのコンポジションに、粒子的な映像(6台の白色レーザープロジェクション/ドイツのJENOPTIK社の特別な協賛によって実現しています)が同期して変化し、観客は、内/外のさまざまな距離やアングルから、自由にこのインスタレーションを体験することができます。

視覚と聴覚と空間を連結させる「シンクロン」のサウンドは、 視覚造形的な組織から割り出されたシステムを独特な形で用いています。1つの正方形の内部を、それぞれが全て異なった大きさの正方形で分割すると、21のパートの正方形の組み合わせで完全形を作り出すことができます。ガラスをブロックとして構成した正方形のインスタレーション作品「perfect square」(2004)で視覚造形的に用いたこの原理を、「シンクロン」では、辺長が異なる20の正方形を中心から螺旋状に順次展開して横1線に並べ直し、それを時間軸に変えて音のダイアグラムとしています。その時間軸上に電子音響的視点からサイン波、パルス音などの構成要素を複雑にコンポジションしているのです。コンポジションのパートごとに、音に同期



して変動する粒子的な映像が細かく割り当てられ、21+21=42分周期でループします。

「カールステン・ニコライ | シンクロン」はこのように、部分と全体を緻密に流通させながら、映像・サウンド・建築空間の各要素を、独自の発想とコンピュータによる情報技術によって融合させた表現の結晶体ともいえるでしょう。それは、これからの新しいジャンルのアートを創造する挑戦といえるかもしれません。

# 「シンクロン」について 文/カールステン・ニコライ



内部に入ることが可能な結晶形であるこのオブジェクトは、半透明な素材で覆われ、六角形から構成される形態をしている。建築としての外皮は、光とサウンド要素を共生するという本質的なインターフェイス機能を担っている。外皮と内皮の表層は、音響的駆体、振動する空間、映像プロジェクションされる表面という機能を同時に共存させる空間を形づくる。

サウンドは、テストシグナルを想わせるサイン波のサウンドのようにシンプルな音響的粒子から成っている。音響的なシグナルは、結晶形体の特殊な音響を通じて生み出され融合する。視覚的なオブジェクトは、もちろん彫刻的な対象としても知

覚される。それは知覚可能な秩序化された内部空間を意図的に作り出すためのもので、そこでは視覚的にも音響的にもニュートラルな状態が保たれる。

サウンドとそれと同期するレーザープロジェクションの映像によって、空間の位相がその都度再定義されていく。「シンクロン」は光、サウンド、建築体の共生を喚起し、それらを時間、周波数、空間といった側面に連結させようとするこころみなのである。

## プロファイル/カールステン・ニコライ Carsten Nicolai

アーティスト/サウンドミュージシャン。1965年東ドイツのカールマルクスシュタット(現ケムニッツ)生まれ。現在、ベルリンとケムニッツを拠点に活動。創造的なプロセスに対する独自の微視的な視点を創りだすために、ビジュアルアートと電子サウンドといった異なる領域の表現をハイブリッドツールとして用いる作品で知られる。その世界は、物理現象、生命現象、カオス現象などにも及ぶ予想のできない形で展開され、絶えず変形する実験室のようでもある。記号的なコードをメッセージ化するサウンドを、視覚化されたサウンドパフォーマンスとして展開。ポストテクノ音響の世界のみならず、現代美術やメディアアートといった多彩な領域を横断し、独自のポジションを確立、国際的にきわめて高い評価を獲得している。サウンドミュージシャンとしては、notoおよびalva notoというダブルネームを用いて、アプローチやコンセプトによって音楽シーンへの使い分けをおこなっている。Pan SonicやOPIETEなど数々のアーティストとコラボレーションを積極的におこない、池田亮司とのユニットcyclo.は有名。2005年秋には坂本龍一とのコラボレーションによるヨーロッパツアーで大成功を収めた。

#### ■ 展覧会歴

1997年「ドクメンタ10」、1998年ライプツィヒ現代美術館個展、1999年「リバプール・ビエンナーレ」、2001年「ヴェネツィア・ビエンナーレ」、「イスタンブール・ビエンナーレ」2003年「ヴェネツィア・ビエンナーレ」、「越後妻有 アートトリエンナーレ」ほか多数。

#### ■ 個展

2000年「polar」(マルコ・ペリハンとのコラボレーション作品/キヤノンアートラボ)、2002年「平行線は無限のかなたで交わる」(ワタリウム美術館)、2005年「carsten nicolai – anti reflex」(シルンクンストハレ、フランクフルト)、「syn chron」(ベルリン新国立ギャラリー)ほか多数。

#### ■ Discography

1994年に「noton.archiv fuer ton und nichtton」を共同で創立。1999年に自らのレーベル「raster-noton.de」を主宰。1996年「スピン」以降、2005年「insen」(坂本龍一との共作)まで25枚のCDをリリース。noto、alva notoとしてサウンド制作をおこない、日本でのライヴも多い。

#### ■ 受賞歴

2000年「アルス・エレクトロニカ」デジタルミュージック部門グランプリ。2001年「アルス・エレクトロニカ」インタラクティヴアート部門グランプリ(マルコ・ペリハンとのコラボレーション作品) ほか。

#### <山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

- ■山口宇部空港から
- ・ 乗合タクシーで YCAM まで 約1時間(1500円) ※前日 18:00までに予約が必要 大隅タクシー0120-31-0860
- ・空港連絡バスで JR 新山口駅まで 30 分(870 円)
- ■JR 新山口駅から
- ・JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分/タクシー5 分
- ・JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分/バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5 分
- ・防長バス 25 分、中園町下車
- 自動車利用
- ・山陽自動車道で防府東 IC から 30 分 ・九州・中国自動車道で小郡 IC から 15 分

#### <お問い合わせ>

山口情報芸術センター (広報担当: 小滝) 〒753-0075 山口県山口市中園町 7-7 TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

E-mail: information@ycam.jp http://www.ycam.jp/